

# まちづくりの足跡



まちには歴史があります。  
その姿は時代によって変わって  
いますが、よりよいまちにしたい  
という人々の思いは共通しています。  
史跡やエピソードとともに、それを辿ってみましょう。

孫 絵の展示会があって、まちの風景を描くの。  
何を描いたらいいかなあ。

爺 そうだね。まちには自慢できる風景がいろいろあるね。一番好きな場所はどこだい。山古志村だったら棚田の風景、中之島町は信濃川の桜堤、越路町にはホテルがある清流、栃尾市には上杉謙信公ゆかりの秋葉神社や城山、和島村には阿弥陀瀬の大杉があるね。三島町の丸太早切り選手権や、与板町の十五夜まつりといったお祭やイベントも絵になるよ。小国町のログ製品や寺泊町の魚の市場通りなど、地域の産業でもいいね。お前が興味もてるものは何だい。

孫 長岡だったら悠久山かな。花火大会もいいし、迷うなあ。

爺 それじゃあこの機会に、まちをじっくり見て回るのはどうかな。爺ちゃんもつき合うから、一緒に歩いてみよう。

孫 お花見のときは悠久山の桜がきれいだったね。

爺 ここに桜や松、杉の木を植えたのは、長岡藩九代藩主牧野忠精だよ。いまのような公園になったのは、それからずっと後だそう。地元の人たちがお金を出して協力しあい、みんなの公園にしたんだよ。

孫 お山には、あおし蒼柴神社やしょうこんしゃ招魂社があるね。これは古いものなの？

爺 蒼柴神社は江戸時代に建てたものだよ。招魂社はほしん戊辰戦争と西南戦争で亡くなった長岡藩士ら関係者を祀っているところで、明治時代につくられたんだよ。

孫 戊辰戦争って、江戸時代から明治になるときの戦争だね。

爺 よく知っているね。幕府側と薩摩、長州藩を中心にした新政府軍の戦いで、この時に長岡藩を率いたのが藩の家老だったかわいつぎ河井継之助さ。

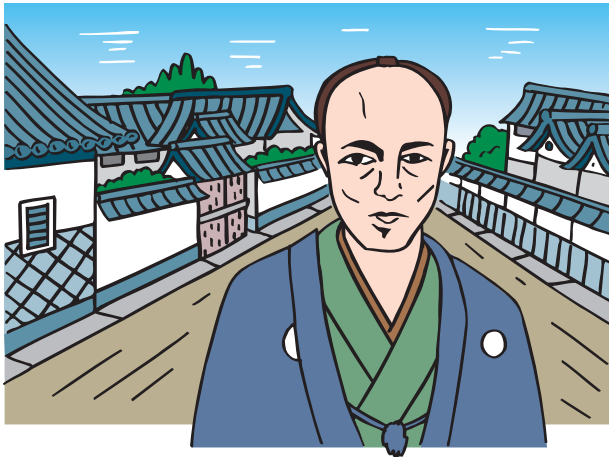
孫 その人はどんな人なの。

爺 江戸時代の終わりの長岡藩を大改革した人だ。江戸時代は幕府が中央政府だったけれど、藩ごとにきまりをつくったり、産業を興したり、独自に兵器を持ったりしていたんだ。継之助は戊辰戦争では長岡藩の「武装中立」を訴えたんだが、新政府軍には聞き入れられず戦争になったんだ。

孫 武装中立って、どっちにもつかないってことかな。

爺 そうだよ。長岡藩は、どの陣営からも独立していたということだね。継之助は陽明学を学び、長崎や横浜にも出かけて西洋事情を知った。外国商人とも交流したそうだが、こうした経験が継之助に影響を与えたんだね。明治政府とも幕藩体制とも別の藩のあり方

を考えていたのかもしれない。借り物ではなくて、地元にあう仕組みを築いていこうという気持ちは大切なことだね。



## 活路を教育に求める

孫 それで戦争はどうなったの。

爺 政府軍に負けて、継之助は亡くなる。長岡藩は経済的に大変な状況になってしまったんだ。

孫 米百俵の話は、戊辰戦争の後で困ったときのことだよ。

爺 こばやしとらさぶろう 小林虎三郎も長岡藩士で江戸へ出て勉強し、日本の開国を訴えていた人だよ。彼も新しい国のあり方を探していたんだ。そのためにも、人を育てることが肝心だと考えていたんだね。

孫 困っているときだから、お米が欲しい人が多かったと思うなあ。

爺 教育は将来のために大切なことだから、我慢したんだよ。この時の国漢学校の流れをくんだ長岡洋学校（現在の長岡高校）などから、たくさんの優れた人材が育った。

いのうええんりょう 越路町出身の哲学者井上円了も、長岡洋学校で学んだ一人だよ。円了は東洋大学の前身の哲学館を創設した人で、当時の学界の傾向をすどく批判し、西洋の学問のうけ

うりをやめて、生きた学問を目指せと呼びかけた先覚者だ。

孫 教育は後にならないと形がみえないけれど、社会の基本づくりなんだね。

爺 国漢学校の方に米のお金をまわせたのは、たくさんの方が虎三郎の掲げた教育の大切さを理解して、その決断を応援したってことだよ。

孫 こういう歴史があるということは、まちの誇りだね。調べたら、地域にまだたくさんの歴史がありそうだね。

爺 三島町にも、学校づくりのいい話があるよ。大正時代にそれまであった三つの小学校が一つに統合されたけれど、しばらく古い校舎に分かれて授業していたそうだ。それでは不便だし、教育効果も心配だという声が上がってきた。そして学校関係者や住民が熱心に働きかけて、当時では珍しい鉄筋コンクリートの新校舎が建ったんだよ。この学校は、まちの規模からみると全国にも類のないほど立派なものだったそうだ。三島町の教育を大切に作る気質が分かる出来事だね。

孫 私たち子どもは学校へ行くけれど、大人にも勉強は必要でしょう。昔はどうしていたの。

爺 大人になっても学ぶことはたいせつだね。お前は良寛さんというえらいお坊さんを知っているかい。禅の修行をつんでから生まれ故郷の越後に戻り、各地を巡って仏の教えを伝え、和歌や書にもすぐれ、権力や名誉を求めない人柄で皆に敬愛された人なんだよ。晩年は和島村の木村家に迎えられ、村人とも親しく交流したんだよ。

人々が良寛さんから学び、伝えられたものが和島へ広がり、今でも根づいていると思う。大人がこうして学ぶことは、地域の文化を培っていくことだね。



## 人が変わると地域もかわる

孫 信濃川の河畔に来たね。昔は信濃川は洪水があつて困ったんだってね。

爺 長野県などから新潟県を流れる日本一の大河だからね。3、4年に一度は洪水被害を受けていたらしい。それを防ごうとしてつくったのが大河津分水路だ。この工事が必要だと動いたのは、いまから約300年前のことで、寺泊の本間屋数右衛門ほんまやかすえもんという人だよ。江戸幕府に計画を願い出てから完成するまでに、約150年もかかった悲願の事業だったのさ。

孫 途中で何度も中断されたんでしょう。

爺 なにしろ大工事だからね。川の流域、県、国が協力しなければ難しい。中之島町出身の政治家・大竹貫一おおたけかんいちも信濃川の治水事業にたいそう尽力した人で、刈谷田川改修や大河津分水路の完成を働きかけた。長年、こうしたたくさんの人たちが努力し、信濃川の治水ができたんだよ。

孫 川のおかげでよいこともあったでしょ。

爺 そう、その一つは水運だよ。鉄道や自動車がなかったころは、物を運んだり人が往き来するのに船が利用されていた。つまり川は道路や線路のようなもので、商工業の発展には重要な条件だったんだよ。江戸時代、信濃川の河川交通の拠点だったのが与板町で、ここからは大坂屋などたくさんの豪商が出ているよ。

孫 ふくしまえ福島江用水は信濃川の水利用だね。

爺 そうだね。長岡市、中之島町などで使われていて、7,000ヘクタールもの田畑をうるおしているよ。これをつくったのはだれか知っているかな。

孫 くわばらきゆうえもん桑原久右衛門という人でしょう。江戸時代にみんなが安心して米づくりをするために、信濃川から水をひいて使おうと思いついたんだよ。

爺 反対する人もあつたし、昔は機械もなくして人の手にたよって作業するから、工事は大変な苦勞だったんだよ。でも福島江が完成すると、お米がそれまでよりずっとたくさん収穫できるようになったわけさ。



孫 いいことなのに、なんで反対した人たちがいたの。

爺 用水をつくるために自分の土地がつぶされるし、作業に協力する余裕がなかったんだろう。用水がどれくらい役立つかわからない上に、工事そのものも大変なんだからね。でも久右衛門は、この用水が米づくりに必要だと思っていた。その強い思いが伝わって協力する人も出て、用水が完成したんだよ。一人ひとりに気持ちの変化が生まれ、協力して行動したことが地域を発展に導いたと爺ちゃんは思うよ。

孫 この間、山古志村の中山隧道なかもやまじどうのドキュメンタリー映画をみたけれど、16年もかけて自分たちの手で掘ったトンネルは、地域をよくしようと頑張った努力の結晶だね。

爺 まさに地域づくりの原点だね。こうした工事や教育のほかに、産業の発展も地域に重要なことだよ。各地に伝統的な産業があるけれど、地元のたくさんの人たちが守り、育ててきたものが多いよ。小国町の名物の和紙も、雪をつかって白くするという技法で、小国町の自然を活かしたすばらしい技だ。

孫 名物といえば、栃尾市にはみんなが大好きなあぶらげがあるね。

爺 そもそもは、江戸時代の秋葉神社あきばの参拝者のお土産品としてつくられたんだ。おいしくて手軽だから、当時たくさんいた馬の仲買人が酒の肴にして、形も大きくなった。それがまた評判になり、あぶらげ店も増えて杜々の森では毎年1万人もの人が集まるあぶらげまつりも開かれている。栃尾の人たちが名物にしたということだね。

## 復興をめざす力

孫 まち中に入ってきたね。この家はだれの家なの。

爺 連合艦隊司令長官だった山本五十六やまもと い そろくが生まれた家だよ。昭和20年8月に長岡に大空襲があって焼けたが、復元したんだよ。

孫 どんな人なの。

爺 日本は日露戦争や第二次世界大戦で戦ったけど、山本五十六は外国の事情に詳しく、国の力をよく知っていたのでアメリカとの戦争には反対だったというのは有名な話だね。

孫 その人は亡くなったの。

爺 昭和18年に戦死したんだ。山本五十六は河井継之助を尊敬していて、故郷を大切にした人だというよ。子ども時代の勉強部屋には世界地図が貼ってあったそうだが、そのころから世界の中の日本を考えていたんだろうね。

孫 戦争が終わる少し前に、長岡に空襲があったんだね。

爺 1,500人近い人が亡くなったんだ。爺ちゃんはまだ小さい子どもで、親戚の家に行っていたんだが、この空襲のとき60キロも離れた新潟市から長岡の空が赤く見えたと言っているよ。

孫 そのとき昔のまちはなくなったんだね。

爺 残念だね。長岡大花火は、この戦争からの復興と慰霊のために復活したまちおこしのシンボルなんだよ。花火をあげることで、もう一度よいまちをつくろうというみんなの思いを高めたんだよ。

孫 へこたれないで、まちのみんなで頑張るぞ、ということね。

爺 地域の歴史やなりたちを知ることは、新しいことの始まりにもつながるよ。

孫 「まちづくり」に対する思いは今につながっているんだね。来年の花火を見るときには、違って見える気がする。展示会の絵には花火と花火を見ている人たちを描くよ。

# CONTENTS [目次]

ごあいさつ .....	1
プロローグ～まちづくりの足跡 .....	3
<b>第1部 新しいまちづくりの進め方</b>	
市町村合併と将来構想のかかわり .....	9
将来構想づくりの理念 .....	10
構想策定における諸課題 .....	11
構想策定の考え方 .....	13
構想策定の組み立て .....	14
課題解決のヒント 1 .....	15
課題解決のヒント 2 .....	16
コラム／人と人、人と社会のつながり	
<b>第2部 新しいまちづくりを考える</b>	
新市民の声を統合する .....	19
新市地域らしさ価値の具体化方針 .....	25
コラム／長岡大花火の歴史	
<b>第3部 新しいまちの姿・地域で共有したい価値</b>	
独創企業が生まれ育つ都市（新市地域らしさ価値：その1） .....	29
元気に満ちた米産地（新市地域らしさ価値：その2） .....	31
世代がつながる安住都市（新市地域らしさ価値：その3） .....	33
世界をつなぐ和らぎ交流都市（新市地域らしさ価値：その4） .....	35
新市統合ビジョン～新市のスローガン～ .....	37
重点実現項目（重点課題）検討の視点 .....	39
新市地域らしさ価値を高めるための重点実現項目 .....	41
コラム／地域らしさの芽	
<b>第4部 私たちの望むまちと取り組み</b>	
地域の夢の検討手法と経過 .....	51
地域の夢（長岡地域） .....	53
地域の夢（中之島地域） .....	59
地域の夢（越路地域） .....	63
地域の夢（三島地域） .....	67
地域の夢（山古志地域） .....	71
地域の夢（小国地域） .....	75
地域の夢（和島地域） .....	79
地域の夢（寺泊地域） .....	83
地域の夢（栃尾地域） .....	87
地域の夢（与板地域） .....	91
新市全体での取り組み .....	95
コラム／21世紀型ビジネスの芽	
<b>第5部 まちづくりのこれからを考える</b>	
今までの地方自治をめぐる環境変化 .....	105
合併によって新市の財政状況は .....	107
市民と行政の基本的なあり方（理念） .....	108
<b>エピローグ～夢のカタチ .....</b>	<b>109</b>
【資料】各種調査結果／まちづくりに対する新市民の声と地域の強み	
地域アンケート調査（新市民の声を集める 1） .....	115
まちづくりワークショップ（新市民の声を集める 2） .....	123
有識者ヒアリング調査（新市民の声を集める 3） .....	125
首長・議会代表者取材調査（新市民の声を集める 4） .....	127
地域の強みを考える .....	129
策定経緯・策定メンバー .....	133